

## 支 部 長 挨 拶

昭和32年6月1日に設立された北海道支部が丁度30周年を迎えた昨年は、30周年記念の特別講演や支部活動に対して功労者の表彰など多彩な計画で支部創立記念を祝いました。とくに従来からの支部だよりを細氷と命名し、特別増刊号(33巻)として支部30年のあゆみを記録にとどめ、多くの先輩方の寄稿を思い出として集録できたことは幸いでした。さらに秋には、日本気象学会の全国大会を当支部が引受け、全国から300余名の会員を迎えて盛会裡に無事大役を果たしました。シンポジウムでは、北海道地域のテーマとしてふさわしい「どか雪」について、研究の現状と問題点が討論されました。このように昨年は多忙な年でありましたが、それだけに会員の皆さん方の行事への参加などを通じて、支部活動も一歩前進したように思えます。



本年は全く通常の年であり、春秋2回の研究発表会における会員相互の活発な研究交流が期待されます。地域社会に対する支部の働きかけとしては、例年同様今年で第6回を迎える夏季大学「新しい気象」の開講と地方講演会を開催して気象知識の普及に努めて参りますが、今後は地域の要望に密着した研究の推進を心がけることが一層必要でありましょう。

気象学をとりまく最近の動向としては、最先端をゆく応用研究もさることながら基礎研究の重要性が見直されており、また研究テーマや体制の国際化が一層進んできています。広く国内外の動向に注意が必要です。

今年度に入り第16期の支部役員選挙が行なわれ、理事、会計監査が決定しました。6月の第1回理事会においては支部長、常任理事が選出され、幹事が指名されました。新しい体制での支部運営に対して、会員の皆様の積極的な参加とご支援をお願い申し上げます。

日本気象学会北海道支部長 秋 山 勉  
(札幌管区気象台長)